



新年のご挨拶

日本デジタル教科書学会

会長 広瀬 一弥

新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

GIGA スクール構想によって1人1台端末や高速大容量のネットワークが整備され小中学校でのタブレット端末の活用が進んでいます。また、令和4年度からは、多くの都道府県で高等学校での一人一台端末の活用がスタートしようとしています。また、学習者用デジタル教科書についても文部科学省「学びの保障・充実のための学習者用デジタル教科書実証事業」として、全国の小中学校で活用が進んでいく予定となっています。新しい学習指導要領のねらいの実現に向けて、充実してきたICT環境をどのように活用していくか、試行錯誤が続いています。

これらのことに関わる研究成果発信の場となるように、また、教育現場の先生方を対象とした研修の場となるように、本年も日本デジタル教科書学会は活動を進めていきたいと考えています。

本年開催する第11回年次大会は、8月21日（土）～22日（日）京都大学の百周年時計台記念館国際交流ホールで開催予定です。反田任実行委員長を中心に計画を進めていきます。

「教育DX」や「SDGs」、「STEAM教育」を切り口にご講演をいただくことや、多様な分野からの研究発表をいただきます。また、昨年同様に学会主催研究会、共催研究会の開催、本学会の研究分野に関わる研究会や研修会の後援も進めていきます。

本学会の大きな特徴は、教育現場の実践者と大学等の研究者の交流です。この交流や共同研究を促進するための研究プロジェクト・研究グループへの研究費助成を本年もぜひ活用してほしいと考えています。会員の主体的な研究会開催を支援する研究会開催助成の制度も、会員の皆様の研究活動のためにぜひ活用してください。また、昨年より、実践者から優れた実践を公

募し、実践効果の定量的評価や論文執筆の専門家である本学会所属の研究者が協力することで、査読論文としての公開を支援する「実践研究論文化支援プロジェクト」を始めています。

本年もこのような様々な取組を進めていきます。引き続き本学会に対するご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

■ 日本デジタル教科書学会第 11 回年次大会（京都大会）のご

案内

第 11 回年次大会（京都大会）

実行委員長 反田 任

2022 年の第 11 回年次大会は新型コロナウイルス感染拡大による影響でオンライン開催となった一昨年、昨年に引き続き京都（会場：京都大学）で開催します。「三度目の正直」という言葉がありますが、今年こそは新型コロナの状況が落ち着き、対面で開催できることを願って開催準備を進めています。

昨年の大会テーマは「ニューノーマル時代のデジタル教科書活用」でした。学習者用のデジタル教科書の 2024 年度の本格導入、先日の「今年から外国語デジタル教科書が先行導入」との報道など、GIGA スクール構想による一人一台の端末活用が進むにつれてデジタル教科書の話題だけをみても動きが加速しています。

今年の年次大会では「教育 DX」やこれからの教育の視点として大切な「SDGs」や「STEAM 教育」に焦点をあてた講演も企画し、これからのデジタル教科書・教材活用や一人一台端末を活用した「探究的な学び」について、話題提供や議論を深めていけたらと思います。

大会スケジュールの詳細につきましては今後本学会の Web ページやニュースレターで随時公開していきます。第 11 回年次大会（京都大会）へ、多数の皆様の参加と、数多くの研究発表をお待ちしています。

【日本デジタル教科書学会第 11 回年次大会(京都大会)】

日程：2021 年 8 月 20 日(土)～21 日(日)

会場：京都大学 百周年時計台記念館 百周年記念ホール

■ マスクール・ウインターセミナー2021

12月4日（土）の午後、12月5日（日）の午前と2日間の日程で、マスクール・ウインターセミナー2021として、オンラインイベントを実施しました。新型コロナウイルス感染症などの社会情勢を考慮して、ビデオ通話アプリ「ZOOM」を活用して、オンラインでの実施としました。講座4本は、関西学院初等部の宗實直樹教諭による社会科、筑波大学附属小学校の弥延浩史教諭による国語科、新潟市公立小学校の二瓶亮教諭による算数科、そして新潟県公立学校教頭杉山一郎によるGIGAスクールに向けての対応についての4講座を行いました。全国的に活躍する講師の講座で、多くの事を学ぶことができました。

ワークショップは、発表者の都合などによるキャンセルがあり、2日間で10本のワークショップが行われました。本来は、セレクト形式のワークショップの予定でありましたが、参加者数が少なめであったため、全体で行う方式に切り替えました。急遽対応していただいたワークショップ担当者には感謝です。外国語、ICT活用、国語、全校ダンスなど様々なワークショップが行われました。今回がワークショップ初デビューという発表者も多かったが、どのワークショップも素晴らしい内容でした。

ブレイクアウトセッションでは、全国から集まった参加者で交流を深めることができました。これからも「発表を楽しむ若手を育てる」「志のある教職員がつながる」などを意識して、マスクールの活動を展開していきます。GIGAスクールという大きな動きの中で、ICTを活用した内容の実践やワークショップが増えてきています。こうした流れを、イベントを通してより加速させ、教職員のICT活用能力を高める一助になればと考えます。

（文責 杉山 一郎）

■ 研究プロジェクト・研究グループへの研究費助成について

日本デジタル教科書学会では、会員の研究活動を支援するために、研究プロジェクト・研究グループへの研究費助成を行っております。

会員の皆様の積極的な応募をお待ちしております。研究プロジェクトへの助成額は最大10万円、研究グループへの助成額は最大5万円です。研究プロジェクトでは本学会論文誌への投稿と本学会年次大会における発表、研究グループでは本学会年次大会における発表を求めるなど、応募の条件があります。詳細は学会ウェブサイト (http://js-dt.jp/research_support/) をご覧ください。申請は随時受け付けております。ただし、本学会の研究助成に関する年度予算額の上限に達した時点で受付を終了いたしますのでご了承ください。皆様の積極的な取り組みを期待いたします。

■ 研究会開催助成について

日本デジタル教科書学会では、会員の皆様の主体的な研究会の開催支援、研究活動の活性化、研究の発展、会員相互の連携を促進すること等を目的に研究会開催助成を行っております。申請に関する詳細は本学会ウェブサイトをご確認ください。会員の皆様の積極的な応募をお待ちしております。

(本学会サイトトップページ上部の“学会への申請一覧”の“研究会開催助成について”をご覧ください。申請書もこちらからダウンロードして頂くことができます。)

(http://js-dt.jp/seminar_support/)